

# 道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 23 年度 第 1 号 2011 年 9 月 30 日

北海道立総合研究機構 栽培水産試験場 調査研究部  
TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

## 道南太平洋スケトウダラ資源調査（産卵来遊群分布調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：平成 23 年 8 月 30～9 月 2 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 100～500mの海域

- ・ スケトウダラの海域平均反応量は、昨年同期をやや上回る
- ・ 魚群反応は胆振沖（とくに登別沖）が中心
- ・ 反応の比較的強い水深は 250～300m
- ・ 漁獲物は、尾叉長 35～50cm（主体は尾叉長 40～45cm）と昨年度よりも幅広い組成となると考えられる
- ・ 水温 5℃以下の水深は 170m以深となっており（昨年同期よりも約 50m深い）、スケトウダラに好適な水温環境は昨年度よりも深みに形成されている

1. スケトウダラとみられる魚群は、渡島から日高海域にかけて広い範囲で観察されました。その中でも、胆振海域の 185 海区、179 海区および日高海域の 158 海区に強い反応がみられました。また、渡島海域についても 189、193 海区の反応量は昨年同期をやや上回っていました（図 1・2）。
2. 海域平均の反応量は、昨年同期をやや上回り、金星丸でこの調査を開始した平成 13 年度以降では最も高い水準となっていました（図 3）。
3. 魚群反応は、水深 100～500mの範囲に観察されました。とくに水深 250～300m付近に強い反応がみられました。（図 4）。
4. トロール調査の結果、水深 200～300m の反応はスケトウダラ成魚が主体となっていました。また、漁獲物の体長組成は、尾叉長 35～50cm と昨年度よりも幅広く、主体は 40～45cm となっていました（図 5）。
5. 調査海域の 5℃以下の水深は 170m以深に形成されており、昨年同期よりも約 50m深くなっていましたが、ほぼ平年（この調査が開始された平成 14 年度以降の平均値）並みの鉛直分布となっていました（図 6）。
6. 魚群反応の強い海域や水深別の反応量から判断して、漁期始めは登別～室蘭沖の水深 250～300m付近に主漁場が形成されると考えられます。なお、スケトウダラに好適な水温環境（5℃以下）は昨年度よりも深みに形成されていることや魚群反応からみたスケトウダラの分布も昨年同期よりも深いことから漁期前半の漁場は昨年度よりも深場となるでしょう。

なお、今回の資源調査の結果は、漁期始め（10～11 月）の状態を把握するために実施しているものです。12 月以降の状況は、11 月下旬に実施する分布調査により予測する予定です。調査終了後にまたスケトウダラニュースを発行して、分布状況や来遊量をお知らせします。

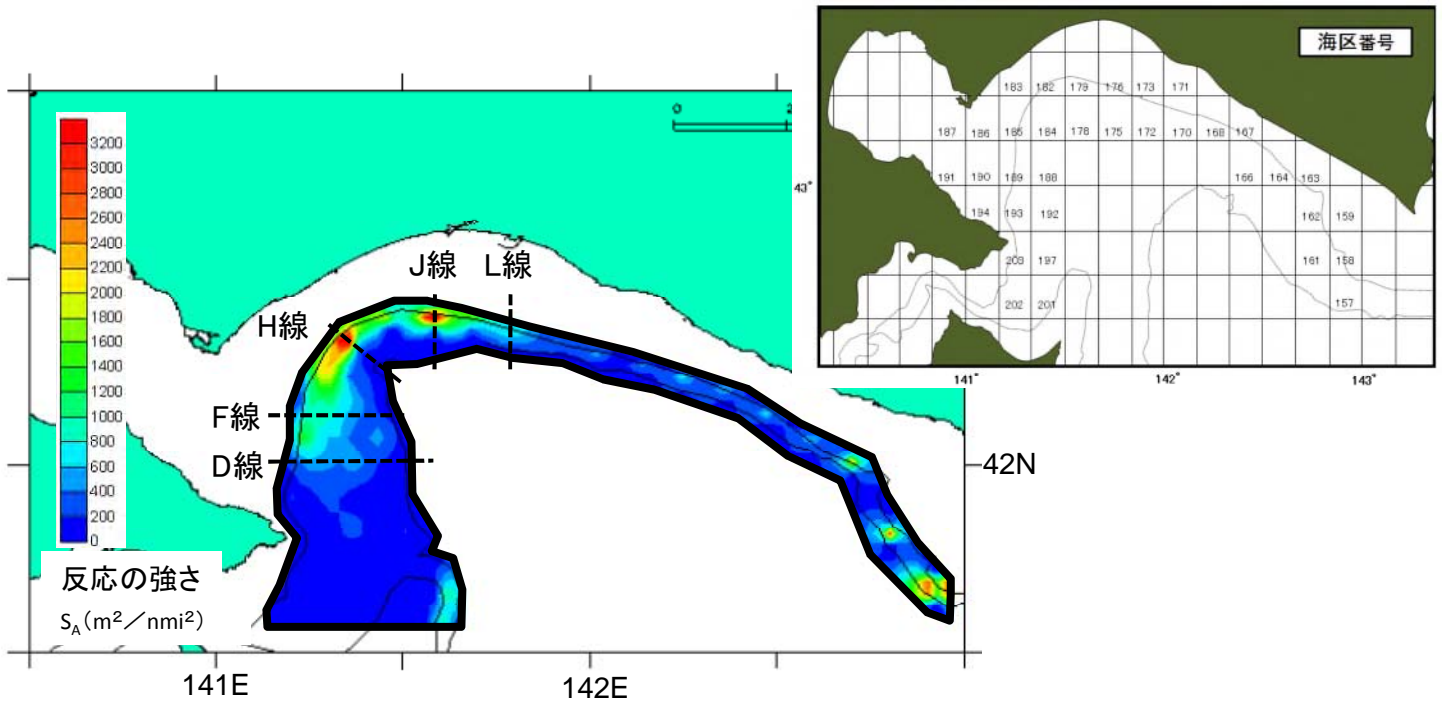


図1 調査海域における魚群の分布

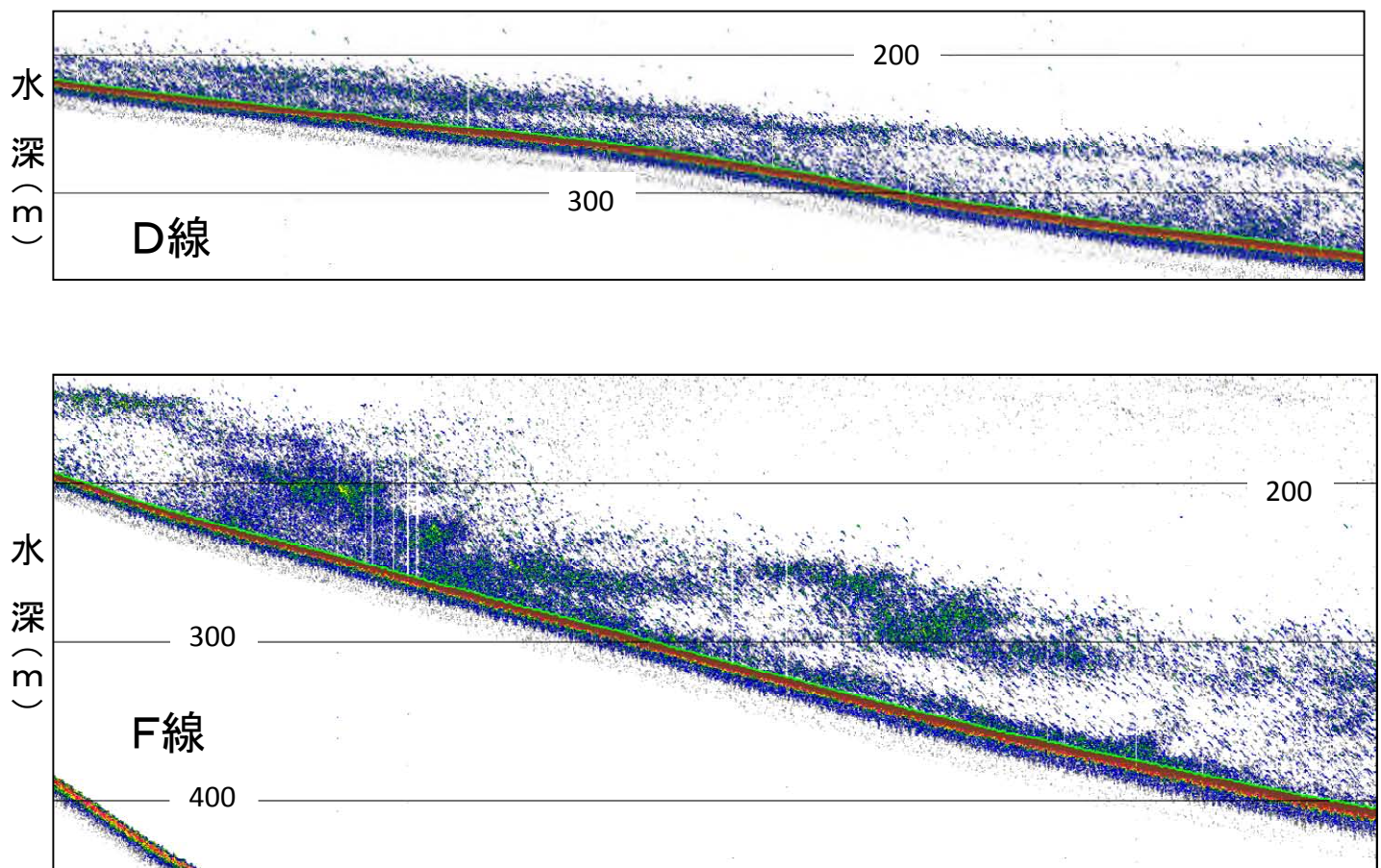


図2-1 魚群の分布状況(計量魚探画像)

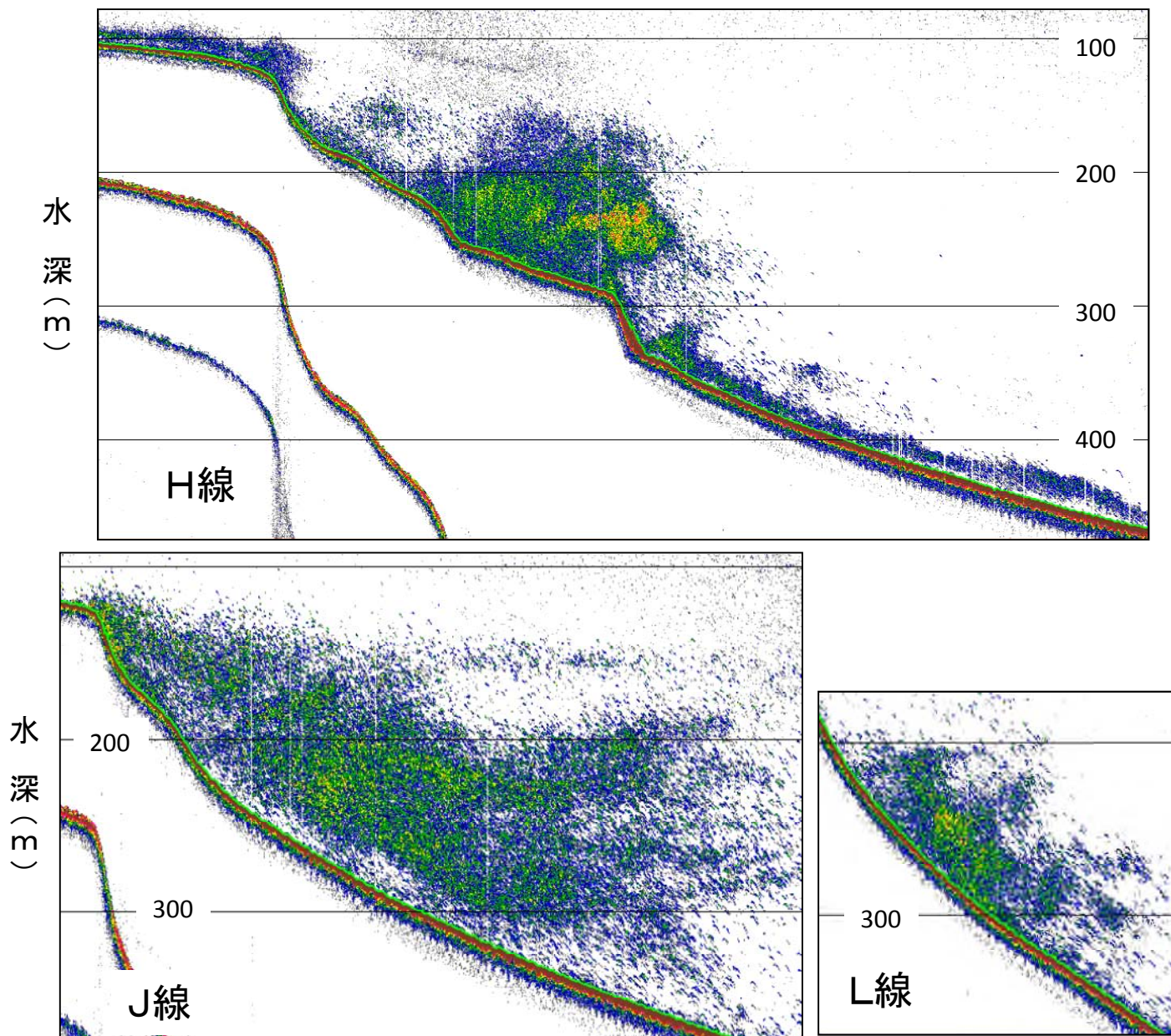


図2-2 魚群の分布状況(計量魚探画像)つづき

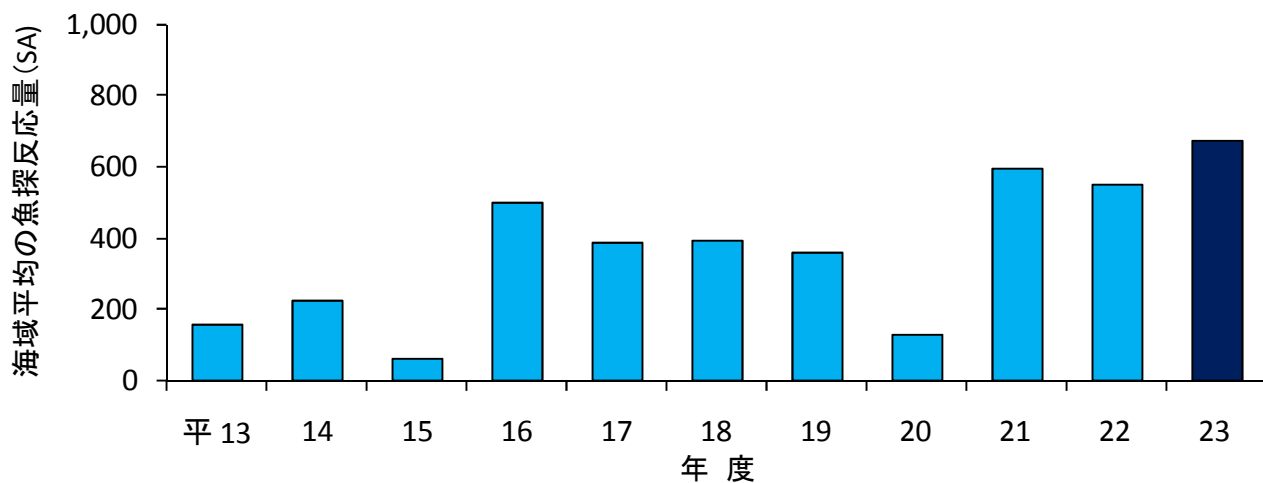


図3 調査海域におけるスケトウダラ魚探反応量の推移

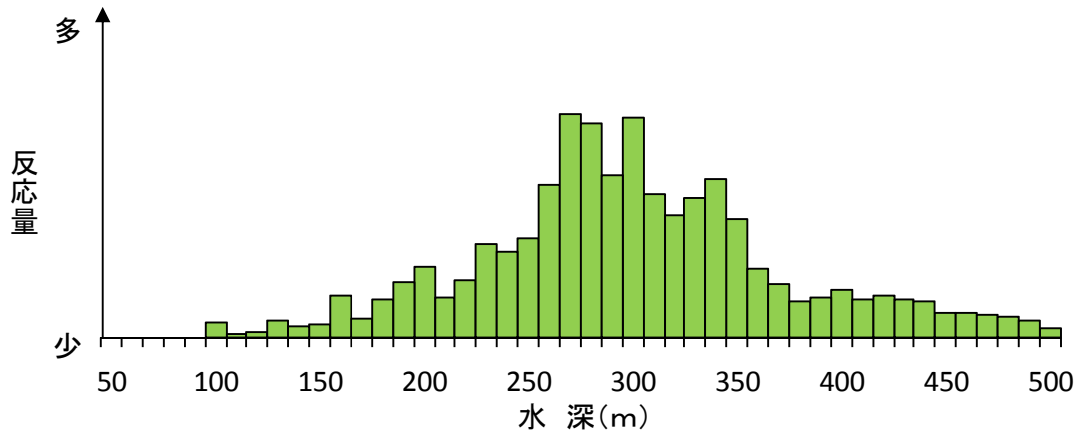


図4 水深別の魚探反応量

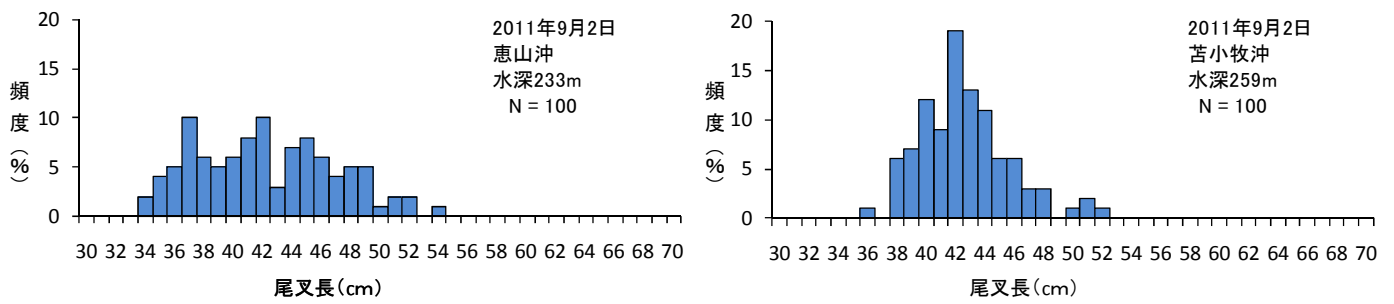


図5 漁獲物の体長組成

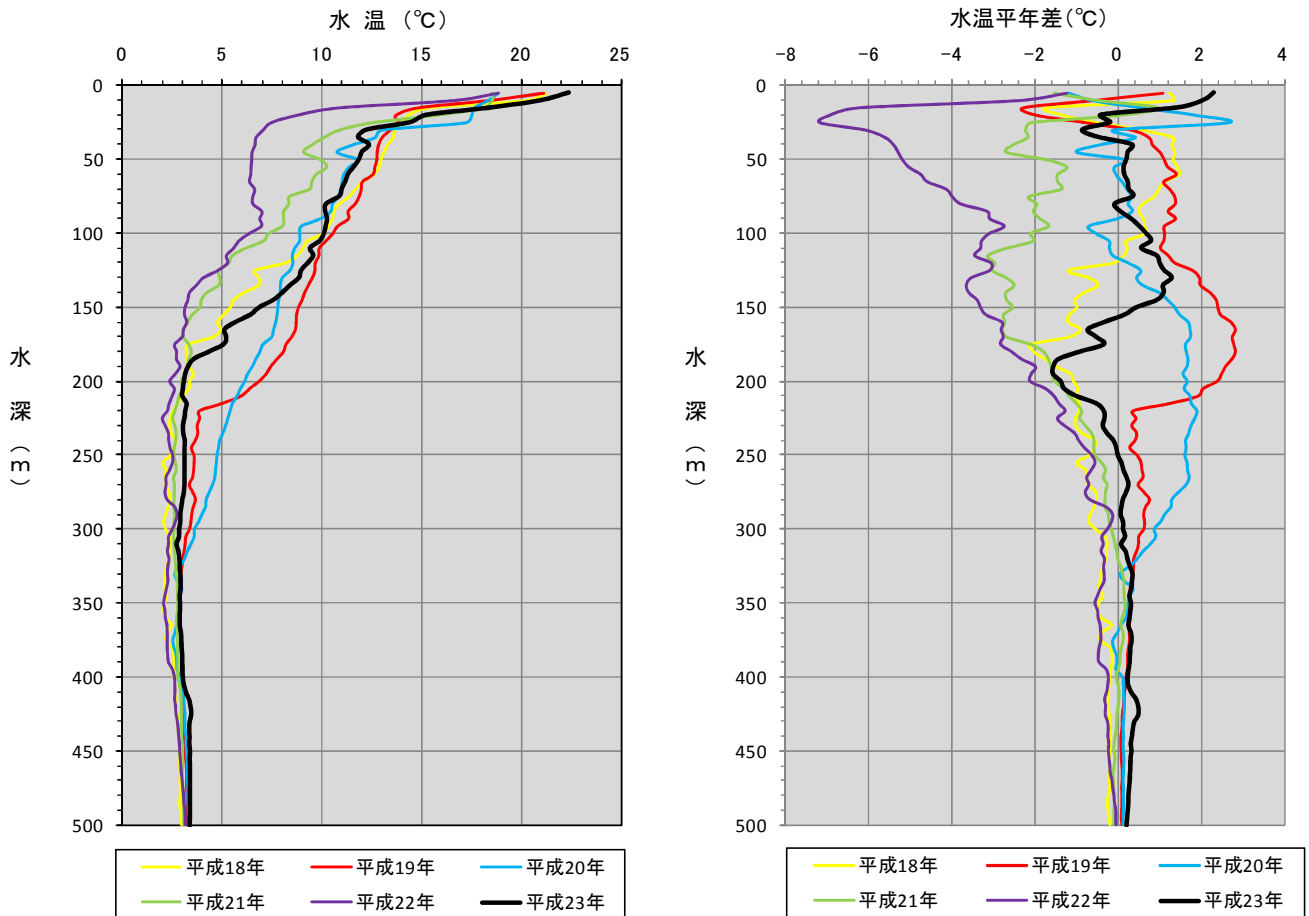


図6 水温の鉛直分布 (8月下旬:登別沖)